13 抱返神社

前九年の役で源義家が盛岡厨川の柵の安倍貞任等を攻めるため、この地に来て、ここから玉川の川筋を進もうとし、川の流れの静かなことを願ってこの地で持仏を祀って祈願した。祈願を済ませた義家は、再び持仏を懐にして厨川の柵に攻めていった。

この戦いで義家は勝利を治め、またここまで無事に帰ることが出来た。これを喜んで義家は、これも仏のお蔭と、あらためて堂宇を建て、懐の持仏を祀ったのが、抱返神社の始まりだと伝えられている。つまり、祈願した持仏を懐に入れてお守りとして持って行き、再び還ってきたから、「懐で還る」で、本当は「懐還神社」と書くのが正しいとも言われている。



抱返神社